府立市岡高等学校
校長　辻本　利勝

# 令和７年度　学校経営計画及び学校評価

## １　めざす学校像

**本校創立以来、時代を超えて受け継がれる「自彊の精神」のもと、自ら学び考え行動し他者と協働できる力をもって、変化の激しい時代をたくましく生き抜き、社会に貢献できる人材を育成する。**

１　全日制普通科単位制における少人数授業などの特色を最大限に生かし、希望進路を実現するための確かな学力を身につける。
２　自主性・自律性を重んじ、部活動、生徒会活動およびさまざま学校行事に取り組み、互いの協力や切磋琢磨を通じて人間力を育む。
３　社会に貢献するためのさまざまな素養を身につけ、広い視野を持ちグローバルに活躍できる人材を育成する。

## ２　中期的目標

### １「 確かな学力 」の育成

（１）国公立大学、難関私立大学進学を目標に、自身の進路実現に向け可能性に挑戦し続ける力を養う。
ア　普通科単位制の特色を生かし、生徒の希望進路に合わせた教育課程マネジメント、履修ガイダンスを行う。
イ　３年間を見据えたキャリア教育、進学ガイダンスを充実させ、生徒の自己理解と意思決定を支援する。
ウ　教員の進学指導力向上のための情報共有化を図り、教育産業と連携した学力分析システムなどを効果的に活用する。
※進路実績　国公立大学合格者数を伸ばし、R９年度には 40 名にする。（R４ 36 名　R５ 24 名　R６ 17 名）

（２）学習指導方法のさらなる工夫改善を推進する。
ア　研究授業、相互の授業観察を行って授業の改善充実に努め、生徒の授業理解度および授業評価の向上を図る。
イ　学習指導要領の評価方法についての研究、新課程大学入試に対応した授業内容の精選など新しい教育課題への取組みを継続する。
ウ　授業おける ICT 機器の効果的な活用を促進する。
※生徒向け学校教育自己診断「授業の分かりやすさ」の肯定的回答率をＲ９年度まで 85%以上を維持する。（R４ 87%　R５ 83%　R６ 87%）

（３）生徒の進路実現を支援するための学習環境を整備する。
ア　生徒が主体的に自学自習する習慣を身に付けるため、校内における学習環境の整備を行う。
イ　生徒１人１台端末を用いて、グループウェアでの教材共有、学習支援クラウドサービスでの課題配信などを効果的に活用する。
※生徒向け学校教育自己診断「進路実現に向けた学習への取組み」の肯定的回答率を引き上げ、Ｒ９年度には 85%にする。（R４ 82%　R５ 82%　R６ 85%）

### ２ 「 主体性・自律性 」の醸成

（１）学校行事、部活動やその他の課外活動等を通じて、自分で判断し考えて行動できる力を育む。
ア　部活動を通して、努力を惜しまず互いに認め合い協力し、切磋琢磨することを通じて成長できる生徒を育てる。
イ　体育祭、文化祭、合唱コンクール等を通じ合意形成の進め方を学び、ルールを遵守し他者と協働できる生徒を育てる。
ウ　読書活動の支援を通して幅広く教養を身に付け自学自習の精神を育成する。
※　生徒向け学校教育自己診断「部活動への取組み」の肯定的回答率をＲ９年度まで 90%以上を維持する。（R４ 89%　R５ 95%　R６ 80%）

（２）総合的な探究の時間を充実させ、さまざまな探究活動・課外活動を通じて人権の大切さや多様性を理解する人間性を育てる。
ア　人権教育の取組みを通じて、自らと他者を大切にする姿勢を培うとともに、豊かな人間関係を形成する力を身に付ける。
イ　地域・他校との交流行事や、外部機関との連携事業への積極的な参加をすすめ、生徒の自己有用感を高める。
ウ　国際理解学習、海外語学研修などへの積極的な参加をすすめ、多様性への理解や表現力・コミュニケーション能力の向上を図る。
※　生徒向け学校教育自己診断「総合的探究の時間の充実度」の肯定的回答率をＲ９年度まで 95%以上を維持する。（R４ 93%　R５ 96%　R６ 97%）

（３）安全・安心で魅力的な学校をつくる。
ア　支援を必要とする生徒に対し、SC・SSW の積極的な活用を進め、教育相談・生徒支援体制を充実させ、カウンセリングマインドの醸成を図る。
イ　生徒の規範意識やマナーの向上を図り、基本的生活習慣の確立を図る。
ウ　保護者、地域から信頼され、生徒にとって安全で安心な学校づくりを行うため、保護者および外部機関との連携を一層強化する。
エ　本校の魅力、特色および取り組みについて、中学生に対する効果的な情報発信を行い、理解を広げる。
※　年間 30 日以上欠席する生徒数をＲ９年度には 20 名以下にする。（R４ 35 名　R５ 41 名　R６ 27 名）

### ３ 組織力の向上と「働き方改革」

（１）学校の教育課題に対して教職員全員で取り組む気運を高める。
ア　各種会議での活発な意見交換により、すべての教育活動および校務運営に関し、全教職員の共通理解のもと行動できる組織を構築する。
イ　危機管理力を向上し、さまざまな事案発生に迅速に対応できるよう、組織的な対応力を強化する。
※　教員向け学校教育自己診断「教育活動が円滑に進む組織運営がなされている」の肯定的回答率をＲ９年度には 85% 以上とする。
（R４ 67%　R５ 76%　R６ 80%）

（２） 校務内容の精選、効率化、平準化に取り組む。
ア　学習支援クラウドサービス、グループウェアの活用により、教員間の情報共有、業務の連携、効率化、ペーパーレス化をさらに進める。
イ　学年、分掌、委員会における業務内容を見直し、業務量の偏りを常にチェックし業務負担の平準化を図る。
ウ　時間外労働の縮減に努め、心身の健康に配慮し、働きがいを感じる職場環境をつくるための働き方改革を推進する。
※　教員向け学校教育自己診断「適正・能力に応じた校内人事がなされ、業務が公平に分担されている」の肯定的回答率をＲ９年度には 65% 以上とする。
（R４ 51%　R５ 52%　R６ 61%）
※　教員１人あたりの時間外在校等時間（週休日を除く）の１か月平均時間をＲ９年度には 25 時間以下にする。（R４ 26h　R５ 29h　R６ 30h）

府立市岡高等学校

**【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】**

| 学校教育自己診断の結果と分析［令和７年 12 月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|---|---|
| 学校教育自己診断の生徒の肯定的回答率　( )内は前年実績<br><br>■全項目平均　　89.2%　(87.7%)<br><br>■３ポイント以上、上下した項目　［※今年度も上昇のみ］<br>・先生は生徒１人１台端末を効果的に活用している　　73.2%(69.5%)<br>・地域交流やボランティア等に参加する機会がある　　50.9%(44.9%)<br><br>分析：全項目平均は今年度も上昇しており、前年度と比較して２ポイント以上、下がった項目は今年度もありませんでした。昨年度からほとんどの項目が高水準で安定しており、学校生活を楽しんでいることや教員の指導に理解を示している様子がうかがえます。さらに、ICT 活用の項目は２年連続で大きく数値が上昇しており、学校全体での ICT 環境整備や指導の効果が顕著に表れていると考えられます。 | ■第１回（６月 24 日実施）<br>令和 10 年度以降の公立高等学校入学者選抜に係る学校特色枠について<br>１　日程前倒しに関する意見<br>・入試日程の前倒しは、中学校側にとって対応が非常に厳しい。<br>・各高校で選抜方法が異なると中学校側の指導が難しいため、方法をできる限り統一してほしい。<br>２　選抜方法に関する意見<br>・高校の特色を生かす選抜方法としては、プレゼンテーションや面接が理想である。<br>・入試として実施する以上、公平性が確保される方法でなければならない。<br>・入試制度の変更により、子どもにかかる負担が大きくなるのではないか。<br>■第２回（11 月 10 日実施）<br>１．特色枠に関する意見<br>・幅広い層の生徒が本校を志望しやすくなる点は評価できる。<br>・高校ごとに基準が異なり保護者にとって煩雑なため、よりシンプルな制度が望ましい。<br>・制度理解のため、オープンスクール等で直接説明することが効果的。<br>・中学校教員に良い印象を持ってもらうための働きかけが必要。<br>２．授業見学に関して<br>・生徒が落ち着いて受講しており、良い学習環境が見られた。<br>・生徒同士のアウトプットが効果的で、その活動を取り入れた授業展開が重要。<br>・教員と生徒の双方向のやり取りができている授業が多かった。<br>・生徒同士が学び合う仕組みを授業にもっと取り入れるべき。生徒の活動量を増やす授業展開が必要。<br>■第３回（２月 13 日実施）<br>「令和７年度　学校教育自己診断」結果について<br>・１人１台端末の使用について<br>→昨年とあまり数値が変わっていない。<br>ほとんどの教員が端末を用いてスライドを使用しているが、生徒が授業内で生徒間、教員間で１人１台端末を使用している例がまだ少ない。教員の課題配信として使用しているにとどまる。教員が積極的に学習形態を変えていく必要がある。<br>・カウンセリングマインドの項目について<br>→生徒の回答は 88%と高い数値なので、生徒の受け止めは概ね良好であることがうかがえるが、保護者の肯定率との間に乖離が生じている。小・中学校を含め幅広い教育段階でもしばしば見られる傾向であるため、この点は今後も継続して注視していく。 |

**３　本年度の取組内容及び自己評価**

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標［R６年度値］ | 自己評価 |
|---|---|---|---|---|
| １「確かな学力」の育成 | （１）<br>国公立大学、難関私立大学進学を目標に、自身の進路実現に向け可能性に挑戦し続ける力を養う。<br><br>（２）<br>学習指導方法のさらなる工夫改善を推進する。<br><br>（３）<br>生徒の進路実現を支援するための学習環境を整備する。 | （１）<br>ア　進路希望に合わせた教育課程マネジメント、履修ガイダンスの実施<br><br>イ　キャリア教育、進学ガイダンスを充実<br>・教育産業による生徒向け学力生活実態調査の活用のさらなる推進<br>ウ　教員の進学指導力向上のための情報の共有化を図る<br>・教育産業による学力分析システムを用いた教員向け分析会の継続的な実施<br>（２）<br>ア　研究授業、授業相互観察による授業の改善充実、生徒の授業理解度および授業評価の向上<br>イ　授業おける ICT 機器の効果的な活用の促進<br>・教員相互の授業見学週間の設定<br>（３）<br>ア　校内の学習環境の整備<br>・自習室（スタディルーム、図書館など）のさらなる活用促進<br>イ　生徒１人１台端末の効果的な活用 | （１）<br>ア　大学合格者の目標人数<br>国公立大学　　40 名　［17 名］<br>難関私立大学 130 名［104 名］<br>イ　生徒向け学校教育自己診断「進路指導、ガイダンス充実度」の肯定的回答率 90%以上を維持する。［92%］<br>ウ　教員向け学校教育自己診断「学校の教育課題について日常的に話し合っている」の肯定的回答率 90%以上。［87%］<br>（２）<br>ア　生徒向け学校教育自己診断「授業の分かりやすさ」の肯定的回答率 90%以上。［87%］<br>イ　教員向け学校教育自己診断「授業での ICT 機器の効果的な活用」の肯定的回答率 90%以上。［87%］<br>（３）<br>ア　生徒向け学校教育自己診断「学校の施設設備の満足度」の肯定的回答率 85%以上。［83%］<br>イ　生徒向け学校教育自己診断「１人１台端末の効果的活用」の肯定的回答率 75%以上。［70%］ | （１）<br>ア　大学合格者の目標人数<br>国公立大学　　27 名　（○）<br>難関私立大学　111 名　（○）<br>イ　生徒「進路指導、ガイダンス充実度」<br>肯定率 94%（○）<br>ウ　教員「学校の教育課題について日常的に話し合っている」<br>肯定率 90%（○）<br>（２）<br>ア　生徒「授業の分かりやすさ」<br>肯定率 90%（○）<br>イ　教員「授業での ICT 機器の効果的な活用」　肯定率 83%（○）<br>（３）<br>ア　生徒「学校の施設設備の満足度」<br>肯定率 86%（○）<br>イ　生徒「１人１台端末の効果的活用」<br>肯定率 73%（○） |

府立市岡高等学校

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2「主体性・自律性」の醸成 | （1）<br>学校行事、部活動やその他の課外活動等を通じて、自分で判断し考えて行動できる力を育む。 | （1）<br>ア　部活動を通じた生徒の主体性、自律性の醸成<br>イ　学校行事、課外活動を通じた生徒の豊かな人間性の醸成<br><br>ウ　読書活動を通じた生徒の豊かな情緒の涵養<br>・毎朝始業時の 10 分読書活動の実施 | （1）<br>ア　生徒の部活動加入率 80%以上を維持する。[80%]<br>イ　生徒向け学校教育自己診断「学校行事への積極的な関わり」の肯定的回答率 90%以上を維持する。[93%]<br>ウ　生徒の朝読に関する意識調査[知識の幅が広がった]の肯定回答率 70%以上維持する。[72%] | （1）<br>ア　生徒の部活動加入率　82%（○）<br>イ　生徒「学校行事への積極的な関わり」肯定率 92%（○）<br>ウ　朝読意識調査[知識の幅が広がった]肯定率 68%（○） |
| | （2）<br>総合的な探究の時間を充実させ、さまざまな探究活動・課外活動を通じて人権の大切さや多様性を理解する人間性を育てる。 | （2）<br>ア　人権教育の取組みを通じた生徒の豊かな人間性の育成<br><br>イ　地域、外部連携、国際交流を通じた生徒の自己有用感の向上<br>・水族館・野鳥園との協同調査の継続<br>・海外生徒交流事業の積極的受け入れ | （2）<br>ア　生徒向け学校教育自己診断「命の大切さ多様性への理解」の肯定的回答率 90%以上を維持する。[93%]<br>イ　生徒向け学校教育自己診断「地域交流、ボランティア活動への参加」の肯定的回答率 50%以上。[45%] | （2）<br>ア　生徒「命の大切さ多様性への理解」肯定率 95%（◎）<br>イ　生徒「地域交流、ボランティア活動への参加」　肯定的 51%（◎） |
| | （3）<br>安全・安心で魅力的な学校をつくる。 | （3）<br>ア　教育相談・生徒支援体制の充実、SC、SSW の活用と連携<br><br>イ　生徒の規範意識やマナーの向上、基本的生活習慣の確立<br>・遅刻指導週間の定例的な実施<br>・長期欠席生徒に対する情報共有、家庭連携の組織的対応の強化<br>ウ　安全安心な学校づくりのための保護者、外部機関との連携の強化<br>・SC および SSW の生徒支援委員会への継続的な参加<br>エ　中学生に対する効果的な情報発信、学校理解の浸透、拡充<br>・中学校教員向けの学校説明会の実施 | （3）<br>ア　生徒向け学校教育自己診断「相談に応じてくれる先生がいる」の肯定的回答率 90%以上。[88%]<br>イ　１日当たりの遅刻生徒人数を前年比 10%減とする。[10.7 名]<br>年間30 日以上欠席する生徒数を 25 名以下にする。[27 名]<br>ウ　保護者向け学校教育自己診断「学校は家庭との連絡を緊密に取っている」の肯定的回答率 60%以上。[59%]<br>エ　オープンスクールへの中学生・保護者の参加総数 1800 名以上を維持する。[1804 名] | （3）<br>ア　生徒「相談に応じてくれる先生がいる」　肯定率 88%（○）<br>相談室や SC 利活用の周知が浸透してきている<br>イ　１日当たりの遅刻生徒人数　8.3 名（◎）<br>年間 30 日以上欠席する生徒数　25 名（○）<br>ウ　保護者「学校は家庭との連絡を緊密に取っている」　肯定率 65%（◎）<br>エ　オープンスクールへの中学生・保護者の参加総数　1627 名（△）<br>生徒数減少の中、新たな広報活動のありかたを模索する必要がある |
| 3 組織力の向上と「働き方改革」 | （1）<br>学校の教育課題に対して教職員全員で取り組む気運を高める。 | （1）<br>ア　全教職員の共通理解のもと行動できる組織の構築<br><br>イ　危機管理力の向上、組織的対応力の強化<br>・生徒支援委員会の定例的な実施 | （1）<br>ア　教員向け学校教育自己診断「教育活動が円滑に進む組織運営がなされている」の肯定的回答率 80%以上を維持する。[80%]<br>イ　教員向け学校教育自己診断「問題事象に対する組織的で迅速な対応」の肯定的回答率 85%以上を維持する。[88%] | （1）<br>ア　教員「教育活動が円滑に進む組織運営がなされている」　肯定率 88%（◎）<br>イ　教員「問題事象に対する組織的で迅速な対応」　肯定率 90%（◎） |
| | （2）<br>校務内容の精選、効率化、平準化に取り組む。 | （2）<br>ア　業務内容の見直し、業務負担の平準化<br>・部活動指導時間等の見直しなど、教職員の時間外在校等時間の縮減<br>・部活動付き添いを含む週休日等の勤務分担の明確化をさらに進める | （2）<br>ア　教員向け学校教育自己診断「適正・能力に応じた校内人事、業務の公平な分担」の肯定的回答率 60%以上を維持する。[61%]<br>時間外在校等時間月平均を 30 時間以下にする。[33h] | （2）<br>ア　教員「適正・能力に応じた校内人事、業務の公平な分担」　肯定率 73%（◎）<br>時間外在校等時間月平均 36 時間（△）<br>・来年度も適正な指導・運営に係る体制の構築に引き続き取り組む。 |